

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600013		
法人名	社会福祉法人 双友会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護(介護予防) つつじのさと		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字大津字前田1187-1		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成22年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

このつつじのさとでは、生活活動において、家事、掃除、洗濯などを体感する事を大切に考えています。外出では、季節感を感じるよう、季節の花や季節の風物詩を感じふれあいを持つようになっています。作品作りでも、季節の花、風物詩にちなんだ物に触れ取り組まれています。この秋には、つつじのさとが開所以降に利用者の方が作られた作品を家族・地域の方に呼びかけ、つつじのさとギャラリーと題して作品を展示しました。秋の行事は、家族の方に協力していただき、運動会、敬老会を開催、一緒に時間を共有して触れ合い、楽しむことが出来ました。また、家族の方へ、認知症養成講座を開き、認知症に対する理解を深める事が出来るように働きかけています。今後も、家族、地域との関わりを大切に、地域に根ざした事業所が築けることができるようにして行こうと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町花でもある“つつじ”が入ったホーム名“つつじのさと”は、この一年管理者・職員が心を一つに入居者の“今”を支える為に多くのアイデアや持ち味を生かした取り組みが実践されている。入居者のこれまでの作品を展示した“つつじのさとギャラリー”は新聞にも掲載され、入居者の励みや自信に繋がっている。“動物園バスハイク”をはじめ家族の参加・協力を得ての行事にも力を入れた事は家族の喜びや信頼を深めたに違いない。若い男性職員の問いかけにユーモアたっぷりに応えるホーム最高齢の入居者やその場面を笑顔で見守る職員の姿にホームの日常を感じ取れた。今後も地域との関わりや認知症に対する啓発活動の必要性を十分認識しており、一階の地域交流スペースや小規模多機能事業所、二階多目的ホールと併せ、“つつじのさと”が力を発揮していく事が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングにて、管理者、スタッフで理念を読み上げ、意識を共有する事の確認をしています。利用者の日頃の様子を家族に知って頂けるよう職員との信頼関係作りを大切にコミュニケーション取ることを第一にしています。	入居者の“らしく”に視点を置き、家族や地域の人とのつながりを大切に愛される憩いの場、ぬくもりを感じられる関係作りを目指すという理念の実践に、掲示により意識付けや毎月のミーティングでの唱和等により意識向上を図っている。入居者個々の居場所を大切にし、地域の中での生活を充実させ、これまでの趣味や特技の継続等理念を具体的に反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント、清掃活動、自主防災組織作りの立ち上げに参加、地域交流を大切にしています。地域の商店街での買い物、美容室の利用、また、図書館、喫茶店では写真・ギャラリー展示を見学等、俳句の会へも参加しています。	商業地の中に立つ事業所は地域の活性化に取組み、地域商店での買い物や喫茶店でのギャラリーを見学に出かけたり、図書館の利用等地域の中での生活拡充を図っている。また、からいもフェスタ等のイベントに参加したり、地域の清掃活動への参加、環境美化の日として草取りや缶拾いに地域の呼びかけで参加し、自主防災組織立ち上げに参画する等地域の一員として活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の方が、季節にちなんだ制作された作品をホーム内に展示して、つつじのさとギャラリーを開き、家族、地域に開放しました。地域の方へ認知症養成講座を開催予定も参加者が少ない状況でした。今後は働きかける努力をして行きます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、区長、役場等の外部からの意見や要望を聞くことで、大変刺激を受けることができます。地域の方に認知症の理解やグループホームの事を知って頂くように出向き、つつじのさとが地域に馴染めるようにしたいです。	地域密着型事業所(小規模多機能とグループホーム)合同で2ヶ月毎に開催。各事業所からの現状報告後、意見交換を行っている。地域の自主消防隊の組織作りの検討や階下の地域交流スペース“よんなっせ”の活用方法を話題としたり、一時避難場所として開放することを話し合っている。	議事録の記載方法の検討、特に参加委員の発言を記録に残し、今後につながる会議とされることが望まれる。また、ホームの課題とする議題の事前案内により、委員からの意見交換が活発になることが期待される。家族は事業所毎に輪番で1名の参加であり、参加の無い家族へ議事録を送付する等情報開示が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	つつじのさとの現状を報告したり、更新調、区分申請等の手続き等で関係を保っています。行政よりの要請があれば協力するようにしています。	運営推進会議でホームの状況を報告し、介護保険制度改正等新情報を得たり、認定更新や区分申請等に出向き相談する等、何事も相談できる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域に開かれた事業所をモットーに寄り添い、見守りを第一に考えています。入居者の訴えを傾聴しながら受容する姿勢でのケアを大切にしています。	職員の入職時に拘束の弊害については勉強会により意識付けを行い、全職員でビデオを活用し意識向上を図っている。帰宅願望に天気の良い日には一緒に出かけたり、寄添いのケアに徹し、なるべく鍵をかけないような支援を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者とスタッフとの関係も穏やかで笑いのある日常生活を送り、馴染みの関係が出来ているように思います。トラブルが起こりそうな時はスタッフが中を取り持ち対応します。穏やかな雰囲気作りをする事で、和んで頂けるとと思います。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用いて、知識を得るようにしています。話し合いの場を持ち、皆で理解していかなければと思います。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される時に家族、利用者の方へ契約・重要事項をきちんと説明して、納得して頂くようにしています。急変時の対応については、定期的に契約・重要事項の再確認をする必要性を感じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の状況等によっては家族の方へ連絡してその際、家族の要望、意見等があれば話を聞くようにしています。面会時等はスタッフより日々の様子を伝えるよう心がけています。急変時対応は定期的に確認する必要性を感じています。	入居者とは日常生活の中で、家族には暮らしぶりや心身の状況を訪問時やTELでこまめに報告し、家族からの率直な意見が出される関係が出来ており、経過記録に記載し検討しケアサービスに反映させている。年間行事計画も家族に相談しながら立案しており、家族参加型のホームに取組んでいる。ホーム内外の苦情相談窓口を説明、掲示している。	ホームでは多くの写真が撮られており、家族への情報発信源としてホーム独自の便り等も検討していきたい。家族は運動会等に参加される等協力的であることが推察される。行事への参加が家族同士の交流の場となっており、今後、家族の忌憚ない意見や要望の収集の機会としたり、家族同士がフランクに話し合える場を作られることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やミーティング、日々の日常業務において意見等反映出来るようにしています。管理者と職員とが話し合う機会を大切にしています。施設の運営方針、理念を理解した上で行動するように努めています。	施設長が参加する隔月ごとの3事業所合同の全体会議では運営方針を課題としたり、各事業所の現状報告や研修の複講等が行われている。ホームでも毎月のミーティングや朝の送り時に方向性を話し合い、報・連・相の徹底により情報の共有化とし、職員の提案によるホーム内でのギャラリー開催、義歯専用ブラシ使用提案等職員は気づきを持ったケアに取り組んでいる。管理者は職員と半年毎に話し合う場を持ち、勤務体制の見直し等全員で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課のPDCAサイクルを基本に自分を見つめる事が出来るよう各自で目標設定して、アピール出来るようにしています。やる気を持ち頑張ることが出来るよう職場の環境面に配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	つつじのさと内において、管理者、職員によるケア等は特に研修会を開くような事はしてません。協会の研修には内容により交代で参加しています。今後は意見、要望を聞いた上で研修する機会を作ることも考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等は他の事業所の方と交流する良い機会と考えています。町内では毎月のケアマネクラブで勉強会を行い、サービスの質の向上につなげています。意見交換、情報交換行い交流してます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、環境の一部となれるよう笑顔で安心されるような声かけを大切にしています。生活歴等に配慮しながら、家庭的な雰囲気作りを提供しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	長くお付き合いさせて頂けるように最初の出会いはとても大事な事として捉えています。入居者、家族の方に安心して任せて頂けるように努めてます。気軽に何でも言ってもらえる関係作りを目指してます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の出来る事出来ない事を観察しながらアセスメントする事を考えています。他利用者の方に良い刺激になることもあります。まずは、安心できる環境作りを提供するように心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の料理作りや生活における洗濯や掃除、レクリエーションが習慣になってきているようです。各自が役割を持ち、馴染みの関係が出来てるように思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状態変化に伴い、ケアの方向性を伝えていくことが大切だと思います。家族の気持ちに寄り添い、絆を築けるようにしています。行事(運動会、敬老会、認知症養成講座)においては家族参加の機会を設けたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方より、要望等があれば調整行い、関係作りのお手伝いをさせて頂くようにしています。本人の馴染みの方等来られた時は家族へも伝えるように関係を保つように心がけてます。	家族と過ごす時間を持ってもらいたいと支援している。お盆を家族と一緒に過ごす方や米寿を自宅でお祝いしてもらった入居者、家族のみならず兄弟親類の訪問、馴染みの商店での買い物、ファンレターを出される方等これまで大事にされてきた関係性の継続に家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気作りに努め、家族のように支え合う事が出来るようにサポートさせて頂いてます。支えあい、寄り添いを基本に、絆を築けるように考えケアしてます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族のような気持ちを大切にしている為、変わりない支援を心がけています。家族の心理的苦痛に配慮する事を考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活において本人の意向をくみ取り支援するようにしています。家族の協力はとても大切です。本人の意思を尊重して行けるようコミュニケーションを重視してます。	本人の思いを聞き取りしたり、職員は笑顔で声かけすることに心がけ、ホワイトボードによる筆談や会話の中での思いを推察し、家族に協力をお願いしながら本人本位となるよう支援している。「コスモスを見たい」との希望に、一緒に出かける等入居者の気持ちに寄り添うことを重視したケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、情報提供書を把握してケアに当たるようにしています。家族の面会時に本人の生活状況について話をさせて頂くこともあります。他スタッフ等からの気づきも得られるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい生活が出来るように、日々の表情、食事量、排泄状況等を状態観察行い、本人の変化に気づけるよう観察すること大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の変化に気づき、また、家族へ状態を報告しながら、今、必要なプラン作りに努めています。常に早めのモニタリングに力を入れるようにしています。	本人・家族の希望を踏まえ、事前の利用施設からの情報を把握し暫定プランをたて、担当職員とケアマネジャーが話し合い、ADLの変化やケア課題、病状等を見極めプランを作成している。認定更新時や状態変化、配偶者の状況等に見直等現状に即したプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中で、身体的変化はあまり見られない時もあるが言葉の内容には大きな変化がみられる事がある為、本人が言った言葉は記録するようにしています。介護計画に反映出来るように記録が出来てない時もあります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対して支援できるよう、家族の協力また思いや意向を大切に継続できるケアを大切にしています。スタッフの臨機応変な対応が出来るよう声かけ等も工夫するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加、買い物も地域資源に貢献するようにしています。必ず、体調観察行い、安全面に配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月始めに定期受診を行い状態把握ができています。適切な医療が受けられるようかかりつけ医と連絡調整を行い、月一回は受診しています。	入居時に協力医療機関を説明し、母体医院での定期受診を職員が同行し情報の把握に努め、他の医療機関受診についても必要に応じてホームで対応している。今後も入居者の健康状態を家族と共有し支援する意向である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化時は、併設の看護師へ連絡するようにしています。日々の利用者の健康状態を観察し、変化が見られたりした場合は看護師または管理者に報告して適切な受診が出来るように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合等は家族と連絡を取りながら不安を取り除けるように相談にのり、情報交換に努めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、主治医・本人・家族・管理者等で話し合いの場を持ち、主治医の判断を基本に対応しています。	医療行為が出来ないことを入居時に説明し、状態が悪化した場合は、その時点で次の方向性を家族・主治医・ホーム側で話し合っている。管理者は事前の話し合いの必要性を感じており、今後も本人や家族の気持ちを確認し、ホームでの生活継続が長く続くケアに取り組む意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡対応マニュアルに沿って実践しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しています。昼夜を問わず避難また消火訓練を行い、近隣の方へも協力体制をお願いしています。	総合訓練を含め消防署や防災業者の参加による年二回の避難訓練を実施している。近隣の方々へ訓練の協力を呼びかけているが参加には至っておらず、今後の課題としている。ホームは災害時の避難場所としての協力を運営推進会議で伝えている。	火災以外の地震・風水害の災害対策や備蓄の準備、夜勤者記録簿等に最終火元確認項目を設ける事で職員の意識づけに繋がると思われる。今後はホームの災害対策について家族に報告する事で安心に繋がっていただきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者がその人らしく、安心して暮らせるように配慮していますが、排泄の声かけに関しては利用者のいるところでプライバシーに欠けた声かけも見られ、馴れ合いになっている部分が見られます。	一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応に努める事を職員は大切に支援している。食事の際咀嚼が困難そうな場合もさりげなく食べやすい大きさにカットするなど尊厳に配慮した対応である。入室の際もノックや「入りま〜す」の声掛けなど必ず了解をとる場面を確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアにおいて本人の意思・希望を表現しやすいようさりげなく働きかけたり、レクを通じて、本人の発語を引き出す事を第一に考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり寝るのが好きな方、読書が好きな方、テレビが好きな方とさまざまですが本人のペースで安心して暮らす事を最優先しています。家事・洗濯・掃除は職員の働きかけでされる方、自ら手伝いに来られる方とさまざまです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の着替えは本人に好きな洋服を選んでもらっています。洋服の選択が困難な方にはスタッフが付添い対応します。男性では電気髭剃りの使用や女性では洗面後クリームを塗られたりとそれぞれ身だしなみを整えられています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つですので、五感を大切にしています。食事を見て楽しんで頂きながら、刻みが必要な方へはさりげない声かけを行い、刻んだりしています。料理の献立によっては味見、味付けもされてます。	一週間ごとに職員が交替で作成した献立は、法人管理栄養士のアドバイスも取り入れ、地産地消にこだわった食材を使用し、入居者も味付けや味見などできる事を一緒に行っている。訪問当日も職員と入居者の笑い声が響く和やかな時間であった。月毎の誕生会や10日のカレーの日、25日の寿司の日、一階多機能事業所と合同での食事・おやつ会など楽しい食事支援に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多く、魚は週4回と栄養バランスを考えた献立を作成、夏場は水分強化に努め、お茶がすすまない方水分が少なめの方へは家族よりスポーツ飲料を購入して頂き必要な水分量を確保するように努めることが出来ました。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室の洗面台で口腔ケアを行っています。義歯使用の方では本人に磨いてもらった後確認を必要とする方へはスタッフが対応します。毎週日曜の夕食後には義歯洗浄(ポリデント)実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間と排泄パターンを把握した上でリハビリパンツの方は布パンツへパットのみに、使用の方は布パンツのみへと自立を促して、実践してます。快適に過ごせるケアを第一に、尿・便意のサイン・訴えを大切にしています。	個々の排泄パターン(日中・夜間・季節)を把握しトイレでの排泄支援に努めている。トイレ付の居室や、多くのトイレ個所は入居者のゆっくりとした排泄となり自立に繋がっている。夜間も自立やリハビリパンツなど個々に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成対応している。予防としては繊維物(バナナ、ゴボウ、からいも等)の摂取、水分強化(乳製品等)また体操・レク運動を行い、腸を刺激して自然排便を促すようにしてます。精神的にも安定するようにサポートしてます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際、利用者の目に付くところへ洗いや方の手順書を貼り、洗身のサポートを出来るようにしてます。週3回の入浴を実施。入浴日には本人に着替えを準備して頂くよう働きかけています。	特殊浴や個浴のある浴室は広く、寒い施設も気持ち良く入浴できるようヒーターが設置されている。基本的に月・水・金の午後入浴を支援し、シャワー浴室も居室近くに設けられている。入浴の準備物や風呂の手順書を掲示し入居者が楽しみながら入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方が休みたい時は部屋で休んで頂くよう、昼食後等は口腔ケア後等に声かけを行うようにしています。リビングで過ごされる時は足のせ台を準備し安楽な姿勢で休んで頂いています。浮腫の軽減にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の服用状況や追加になった薬については処方箋に基づき観察しています。精神面、身体面、便秘等、色んな方面から様子観察を行い、また、主治医の連絡体制を取るようしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書が好きな方へは、図書館へ行き、好きな本を選んでもらったりしています。外出が好きな方へは体調観察を行い、天気の良い日は散歩に出かけたりしています。花が好きな方へは花を活けて頂いたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事を計画して、各月の行事担当者が計画を手掛けるようにしています。四季折々の季節を感じて頂くよう花やドライブ、展示物の見学等、外出しています。家族の方へも参加、協力して頂き、動物園にも行きました。利用者の要望を聞きながら外出を計画しています。	今年度は口蹄疫や夏の猛暑もあり、外出支援が困難な時期もあったが、家族も参加しての動物園バスハイクの実現や、行事担当者を中心に花見(桜・つつじ・コスモス)やぶどう狩りをはじめ、日常的な近隣の散歩、地元の祭り(つつじ・鈴市など)、個別対応で地域のギャラリーや図書館に出かけたり、家族の協力による外食や親類の集まりへの外出も支援されている。	今後はドライブを兼ね入居者の喜ばれる外食支援(すし等)も検討したいとしており実現に期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活に必要な物等は本人・家族に報告、確認してから購入するようにしています。支払や金銭の事を心配されないよう配慮を行い、職員で管理させて頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方の子どもへ手紙のやり取りのお手伝いをしています。本人の状態によっては代筆しています。好きな芸能人へファンレターを書かれた方もいます。手紙は本人と一緒に投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで過ごされる時は日差しによるまぶしさや風等の体感による寒さの訴え、本人が不快に感じる音等は随時、職員で調整して居心地の良い環境を提供出来るようにしています。また、季節の花、作品等を見やすい場所に掲示して見て楽しみ話題作りにもなっています。	採光よく明るいリビングや台所には、家族や職員の持ち寄った季節の花や入居者の作品(俳句・絵など)が飾られ穏やかな空間である。トイレや浴室、脱衣所をはじめ共有空間は入居者の安全面も考慮しスッキリと整頓されている。日々の掃除や業者による年二回の床の手入れによりホーム内は清潔に保たれ居心地の良さに繋がっている。	共用空間の掲示物や作品についても定期的に見直す事で、より全体的な季節感ある空間になると思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの生活が基本になってますが食後や休みたい時、ゆっくりしたい時はさりげなく声かけして部屋で休んで頂くよう心がけています。気の合う利用者の方への配慮して食事テーブルを設定したり、部屋での会話も自由にされてます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方に作って頂いた手作り花瓶に花を活けてます。本人、家族に協力の下、馴染みの椅子や写真等持ってきてもらい安心出来る環境作りに努めています。ボックスを持ってきて頂きパット、リハパン使用の方へも収納を考慮しました。	家族の協力により個々の馴染みの家具や小物、季節の花の鉢植えが持ち込まれている他、入居からこれまで綴ったアルバムやコルクボードに写真や絵の掲示、俳句帳、排泄用品の収納ボックス等職員の配慮による品々により落ち着いた空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべてバリアフリーです、利用者の方へ、シルバーカー、歩行器、杖使用にて見守り、付添ケアを行います。家事では食材を切ったり、食器拭き等されます。洗濯物を自分でタンスに収納してもらい事で安心感を持って頂くようにしています。		